

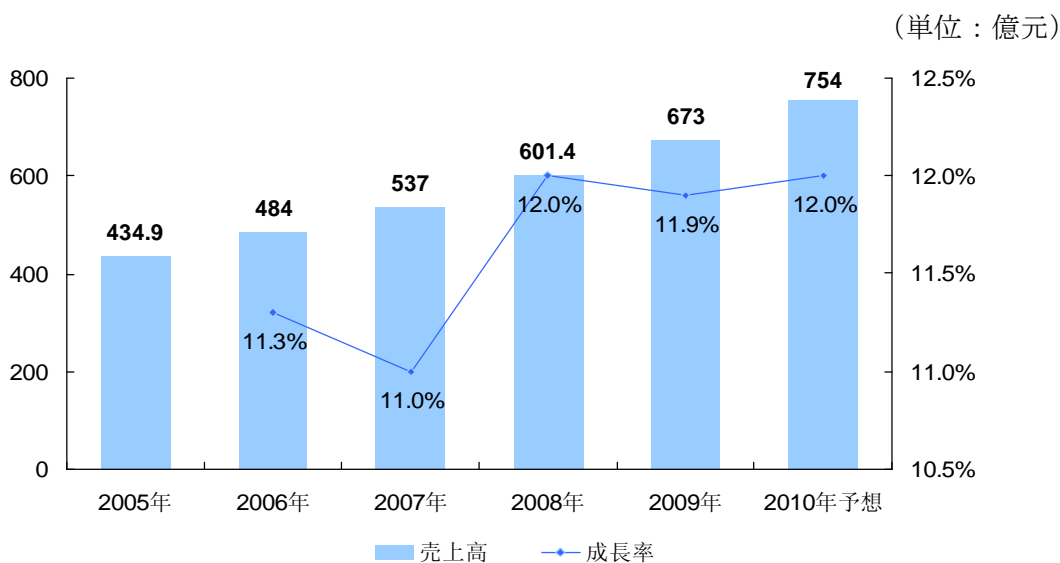
## 中国 OTC 医薬品市場 ～2010年には754億元へ拡大～

### ■中国OTC医薬品マーケットの概況

2008年の中国全体における医薬品マーケットの市場規模は約**4,642**億元であり、前年比**21.4%**の成長率を実現した。そのうち、**OTC** 医薬品は医薬品市場全体の僅か**13%**を占めるに過ぎず、全体比が**30-40%**前後を占めている先進諸国と比べ、大きく遅れているのが現状である。しかしながら同時に、大きなポテンシャルを秘めていることは間違いないといえよう。

中国の**OTC** 医薬品市場は**2005年-2008年**の3年間、市場規模が**434.9**億元から**601.4**億元まで成長した。増加額は**166.5**億元に達し、年成長率が**11%**を超えている。結果、**2009年**、**OTC** 医薬品の市場規模は**673**億元に達したと推測される。そして今年**2010年**には前年比**12%増**の**754**億元に達する見込みである。さらに**2017年**には中国**OTC** 市場価値は**1,500**億元を超えると推測され、**2020年**には世界最大の医薬品市場になることが予測されている。

中国 OTC 医薬品市場規模推移



(出所：中国 OTC 協会資料より矢野経済研究所作成)

一方、**2008年**の日本の**OTC** 市場は、前年比**99.0%**の**7,740**億円である。市場は成熟しており、**2010年**の市場規模は**7,690**億円と予測されている。

**2008年**の時点において、中国の**OTC** 医薬品の市場規模は既に日本を上回っている。さらに前述通り、中国**OTC** 医薬品市場は**2017年**には**1,500**億元になると見られることから、成熟市場である日本を主戦場とする日本の**OTC** メーカーにとって、中国は非常に魅力的な

市場となっていることは間違いない。

現在、日本の **OTC** 薬メーカーは、次なる成長ドライバーとして、中国を始めするアジアを開拓中である。アジア市場、特に中国市場での売上拡大が、各社の成長を大きく左右することになると考えられ、今後も中国進出を目指す **OTC** 薬メーカーが増加する可能性もある。

#### ■中国 **OTC** 市場の流通構造

中国 **OTC** 医薬品市場の流通構造の特徴としては、多数の卸・代理店が存在し、地域毎に複雑に絡み合い整備されていないことが挙げられる。年々、市場競争も激しくなっており、今後は規模の小さい会社は徐々に淘汰されていくと予想される。また、外資大手卸企業の参入によって中間流通構造は変化していくことは間違いない。

中国では中間流通を通さず、直接小売店と取引しているメーカーが少ない。中国は広大な国土、地域毎に違う商習慣などから、メーカーが小売末端にある全店舗までカバーできないのが現状である。直販する場合、人員コストと管理費用が膨大になり、対応できないのが現状である。

よって中国 **OTC** 医薬市場参入にあたっては、地域別戦略が重要になってくる。日本で有名、かつ上海や北京などの沿岸部で有名であっても、一旦内陸部の都市に入ると、全く無名であるという事は珍しくない。省別、東北地方などのエリア別の流通対策、そして **1** 級都市、**2** 級都市などの都市の大きさによる商品別対策も必要になってくるかもしれない。

また、どの **1** 級卸・代理店を通じて販売していくかという流通戦略は非常に重要であることは言うまでもない。小売店舗の整備統合も始まっている。業務提携、**M&A** を通じて、必要な経営資源を集中させ、市場において優位なポジションを確立する動きは今後も多くなってくるであろう。医薬品メーカーとしては、まずは販売重点地域を定め、その次にその地域における主要代理店を複数ピックアップ。その上で自社にとってのメリット、デメリットを再確認して流通戦略を組み立てる必要がある。

一方、日本の **OTC** 薬流通であるが、直販・チェーン系⇒直販、家庭薬・新薬系⇒卸経由、となっており、直販・チェーン系メーカーが卸を利用することや、家庭薬・新薬系メーカーが直販することはなく、流通構造が整備されているのが特徴である。

#### ■大薬房の躍進

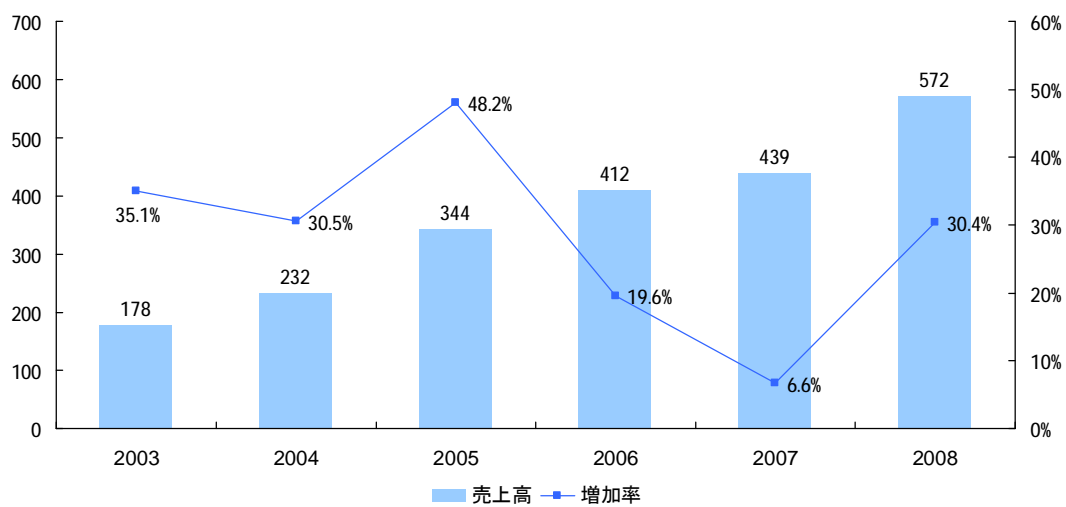
近年、**OTC** 医薬品の売場としてワトソنز、マニングスのような「ドラッグチェーン」が注目されてきていることは確かである。上海市内だけを見ても、店舗数は増加傾向にある。しかしながら、日本人にはあまり馴染みのない、中国における大型薬局店「大薬房」も注目されている。

**2008** 年における中国の大薬房の数は全部で約 **36** 万店、そのうちチェーン店企業は **1,900**

社以上となっておりチェーン店比率は**36%**となっている。地域別で見ると、上海には**2,796**店の大薬房が存在しており、チェーン店比率は高く**82.3%**の**2,302**店となっている。また北京には**5,191**店の大薬房が存在しておりチェーン店比率は**19.99%**と**1,038**店となっており、店舗数は多いもののチェーン店比率は低くなっている。広州における大薬房の店舗数は**6,405**店舗。**3**大都市の中では最も多い。チェーン店比率は**66.4%**で**4,253**店舗となっている。

これら大薬房の業績も好調である。**2008**年、中国医薬業界大薬局経営企業トップ**100**社の売上高総額は**2007**年の**439.1**億元に比べ、**30.4%**増の**572.4**億元となっている。

中国 大薬房経営企業トップ100社売上統計推移



(出所：中商情報網より矢野経済研究所作成)

以上